「天気」編集委員会から

本誌38巻第6号「会員の広場」への根本順吉氏の投稿に関連し，「天気」編集委員会における議論の一端を紹介します．

まず，編集委員会に対する問題提起として，根本氏は次の二つの点を指摘しています．

『・・・通読して問題は遠くにあるのではなく編集者の足元にあることを，私は痛感した．若い編集者はおそらくこの困難を元気よくのりこえていくであろう．』また，『どうかもう少し誤植の少ない雑誌を作ってもらいたい．それは学会の質の高さを示す一つの指標となることでもあるのだ．』

これに対し，編集委員の役割を明確にできれば，『足元にある問題』を見すえることができ，それによって編集委員の資質の向上を図り，ひいては「天気」に還元できると考えられます．

編集委員の役割は，①的確な記事の採取，②投稿原稿（論文等）の一定レベルの確保，③平明な文章による記述の依頼（一般会員に代わる執筆者との交渉），④割付，校正等の具体的な編集作業，などが挙げられます．

的確な記事を得るために編集委員は常にアンテナを巡らし，会員の関心の高い記事や，重要度の高い記事をタイムリーに処理できるようにしなければならない．そのためには，気象学の基礎的な知識はもとより，最先端の研究の動向にも明るくなければならない．一つの記事を紹介する時，未確定の訳語や，概念等を難解な表現のままにしておいては，何のために記事にするのか全くわからなくなってしまう．執筆者から如何にして平明な文章や表現を引き出すかは，編集委員の役目であり，委員の力量が最も発揮されるのはこの部分であろう．この場合，編集委員は一般の会員の立場に立って執筆者と向き合うことが大切です．

割付や校正の作業は忍耐の伴うものであり，時には不注意のため見苦しい誤植が散見されることもあろうかと思われます．今後とも可能な限り第一校は著者校正をお願いすることとし，なお一層の注意を払いたいと思います．

編集方針は，毎月定例の編集委員会で議論されますが，「天気」を手にされる会員の方々の意見を常々待ち望んでいます．今回，根本氏から編集委員への叱責と励ましを下さったことに関し，議論を活発にする意味からも感謝申し上げます．このような「天気」に対する反応は編集に携わる個々の委員にとっては，内容の如何に拘らずうれしいものです．

編集後記を掲載するようになって，10年近くになります．個々の編集委員の興味，関心にはじまり，委員会からのお知らせなど，自由なタッチで今後も続ける方針です．会員の意志を少しでも反映するよう努力している編集委員の赤裸々な吐息を感じ取って戴き，それに触発されて投稿していただければ願ったり叶ったりです．

編集後記：199X年X月，「気候変動に関する枠組み条約」が，世界各国の代表により署名され．これにより，人類は我々と我々の子孫のため，地球環境破壊，特に地球温暖化をもたらすであろう二酸化炭素を中心とする温室効果気体の削減に向けて，手を携えて立ち向かうこととなった．

実際の条約署名は来年6月の「国連環境開発会議」で予定されており，現在は3カ月に一度のペースで条約交渉会議が開催され，精力的な議論と条約草案を作る作業が進められている．政治的には，南北問題という重要な要素も絡んでいるが，条約策定にあたって科学の役割も従来にまして重要となってきている．科学的知見と役割が十分に取り入れられ，南北問題等の重要課題も考慮され有効な条約が完成することが望まれる．

そのためにも，確かな観測事実，詳細な解析とそれに対する明快な物理的解釈，精度の高い予測モデルの開発などにより気候変動に係わる調査研究を着実に推進する必要がある．天気誌上にも多くの関連論文・記事等が掲載されているが，人類の未来に係わるこの緊急かつ重要な課題について今後も益々投稿が増えることを期待したい．

（羽鳥）